

# 中間評価

## 対象事業No.5：南海地震に伴う中土佐地区の津波避難を支援する道路整備



事業の目的 【南海地震に備える】

発生確率が、今後30年間で50%、50年では80%と予想される南海地震、発生が予測される大津波からの避難活動及び浸水被害後の復旧活動を支援するため、幹線道路及び地域内道路の一体的な整備を行う。  
前回の昭和南海地震(S21.12)で津波による大きな被害が発生した当地域では、次回でも津波の浸水深が5mを超えると予想される地域があるが、避難路となる道路が海岸沿いにあたり、狭く曲がりくねっていたりしている現況である。早期の整備により迅速な避難が可能となる生活基盤づくりが必要である。

### 【整備前の課題(県民ニーズ)】

地域内避難道路、幹線道路を一体的に整備

・迅速な避難が可能となり、津波浸水地域住民の安全性を確保

一体的な整備

避難路確保カバー人口比率の拡大

### 指標算定の考え方

地震発生直後に指定避難場所に避難できる沿線住民及び津波終了後に緊急避難場所から指定避難場所に避難できる沿線住民の人口比率。

津波避難計画、地区別人口データによる。

避難路確保カバー人口比率

= 指定避難場所に避難できる沿線住民数 / 沿線人口

【効果】迅速な避難が可能となり、津波浸水地域住民の安全性を確保

南海地震対策は高知県にとって喫緊の課題であるため、久礼須崎線(鎌田～大野)、中土佐佐賀線(志和地)などに重点投資を図り、早期の供用や部分供用を目指している。



(整備前)



現道は海岸線に沿った道路

【事例】県道久礼須崎線(中土佐町大野)

(整備中)



トンネル掘削により、危険な海岸線を通らずに迅速な避難が可能

(整備前)



狭く曲がりくねった道路

【事例】県道中土佐佐賀線(中土佐町志和地)

中土佐町志和地～中土佐役場までを時間短縮 20分 15分

(整備後)

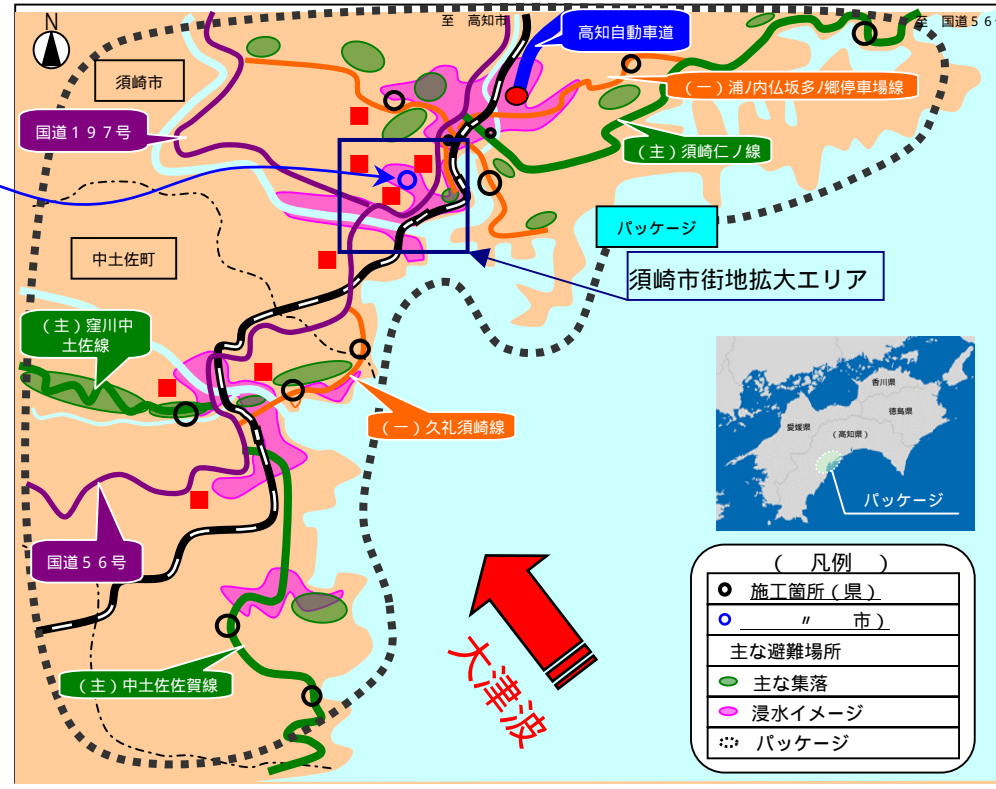
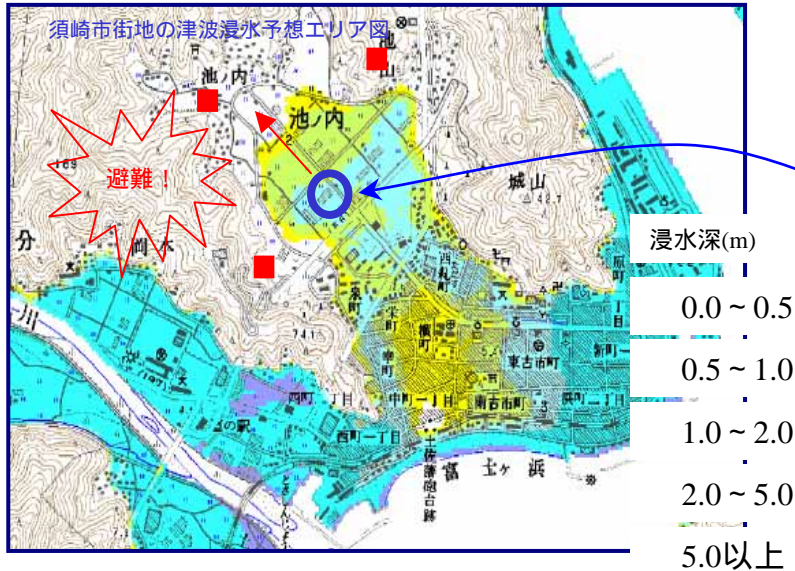


道路を拡幅し、曲がった走りづらい箇所を是正により住民の迅速な避難が可能

津波は、高く、速いがさらに、少ない時間も繰り返すザッパン!



南海地震に備え、発生が予測される大津波からの避難活動支援をパッケージ目標とすることで、投資効果を明確化し地域の重点課題に対応する。



道路整備によるカバー圏域のさらなる拡大を！



【事例】市道池ノ内7号線(須崎市池ノ内)

第1次緊急輸送道路である国道56号までの基盤整備を進める。(緊急車両の通行を考慮し、車道幅員4mでの最低限の幅員を確保する。)

今後の課題など

- ・H17末時の中間目標は達成したが、各課題のカバー区域の更なる拡大を目指し、避難路となる路線と地域内避難道路を一体的に整備推進。
- ・避難路ネットワークを地域、市町村と協働して構築し、今後の防災計画に反映する。
- ・地域のソフト施策(津波標識や看板設置、避難訓練等)と連携してパッケージの整備効果を高める。

達成度の報告

H16当初現況値	0 (%)
H17末中間目標値	30 (%)
H17末中間実績値	30 (%)